



テルモ株式会社

**2007年3月期 中間期**

**決算説明会**



# 連結中間期決算の概要とトピックス

代表取締役 社長  
高橋 晃



# 連結中間期決算の概要

# 増収・増益 2ヶ旬伸長

(億円)

	06/3期 中間	07/3期 中間	増減率
売上高	1,198	1,327	10.7%
粗利益(率)	653 (54.5%)	733 (55.2%)	12.2%
販管費(率)	403 (33.6%)	446 (33.6%)	10.7%
営業利益(率)	250 (20.9%)	286 (21.6%)	14.5%
経常利益(率)	253 (21.1%)	291 (21.9%)	14.8%
中間純利益(率)	163 (13.6%)	184 (13.9%)	13.0%

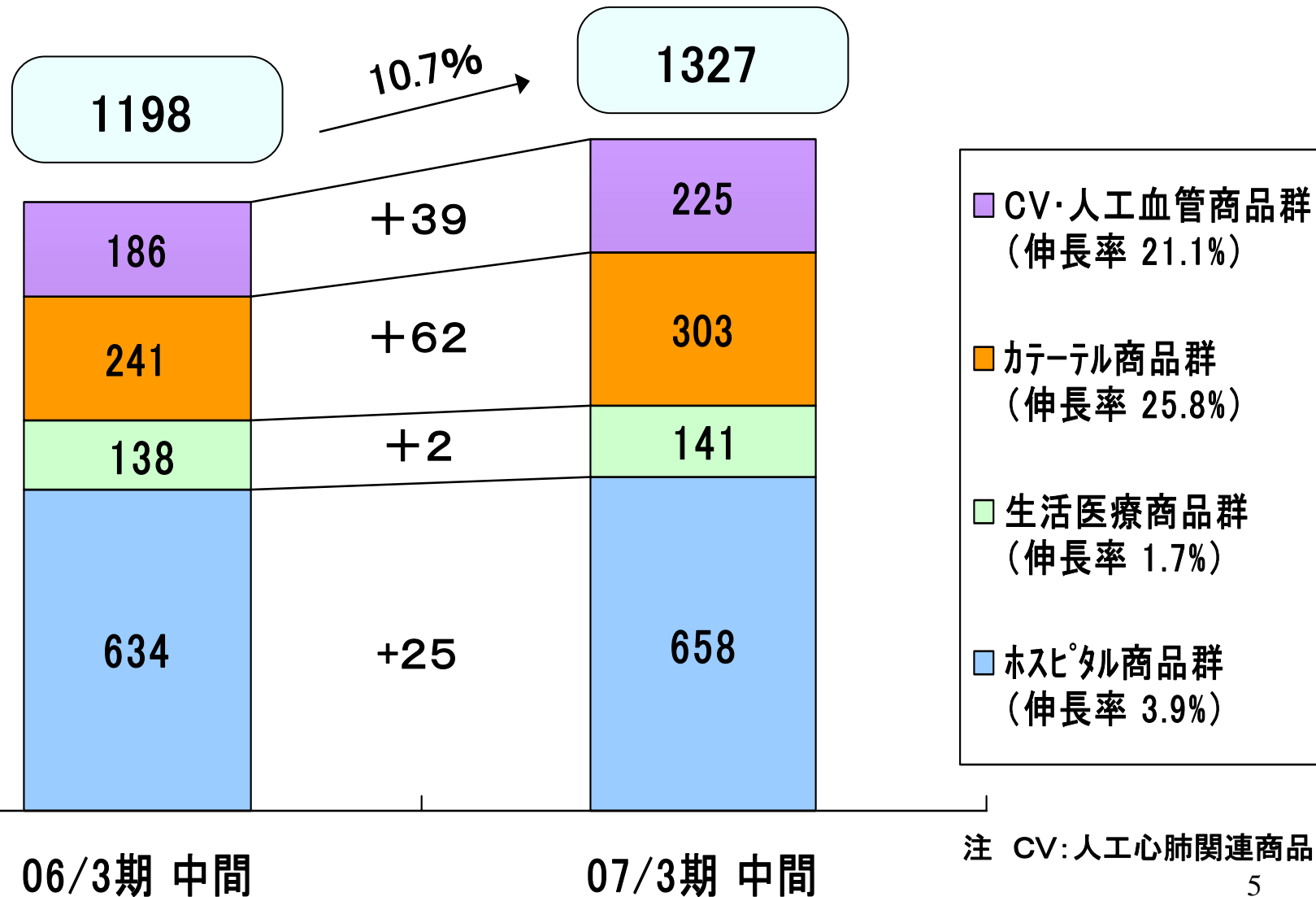
期中平均レート

US\$ 110円  
EUR 136円

115円 5.4%円安  
146円 7.7%円安

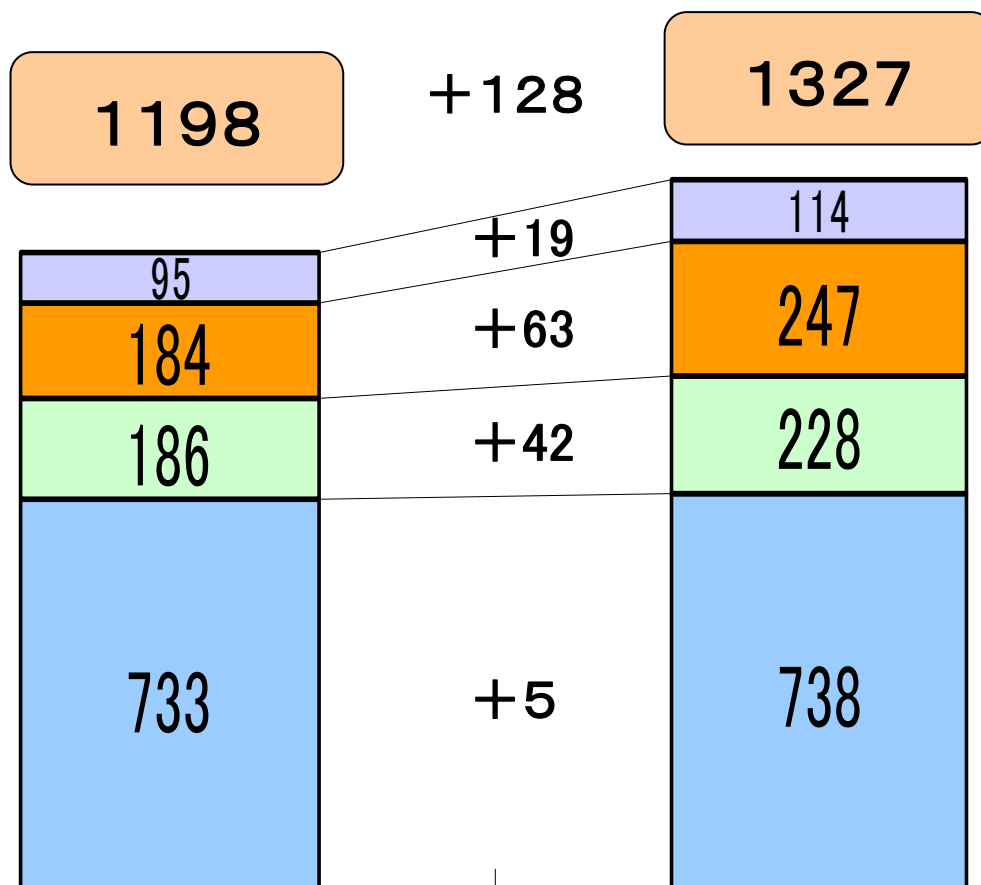
# 売上高(商品群別)

(億円)



# 売上高(エリア別)

(億円)



連結合計 10.7% (7.8%)

□ アジア(伸長率19.4%) (12.2%)

■ 米州(伸長率 33.9%) (27.6%)

□ 欧州(伸長率 22.6%) (14.0%)

海外伸長 26.4% (19.0%)

国内伸長 0.7%



為替の影響を除く

06/3期 中間

07/3期 中間

39%

海外売上比率

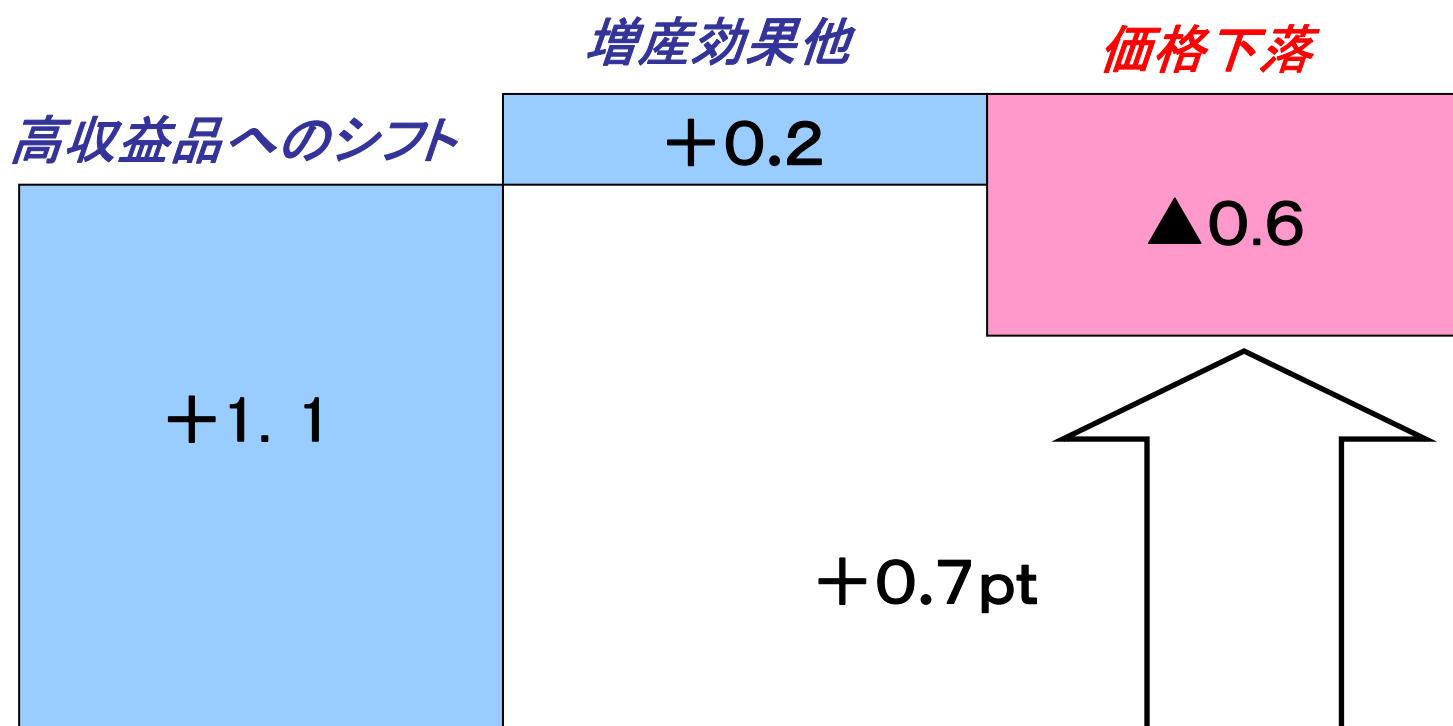
44%

6

# 粗利益率55.2% 前年比+0.7pt

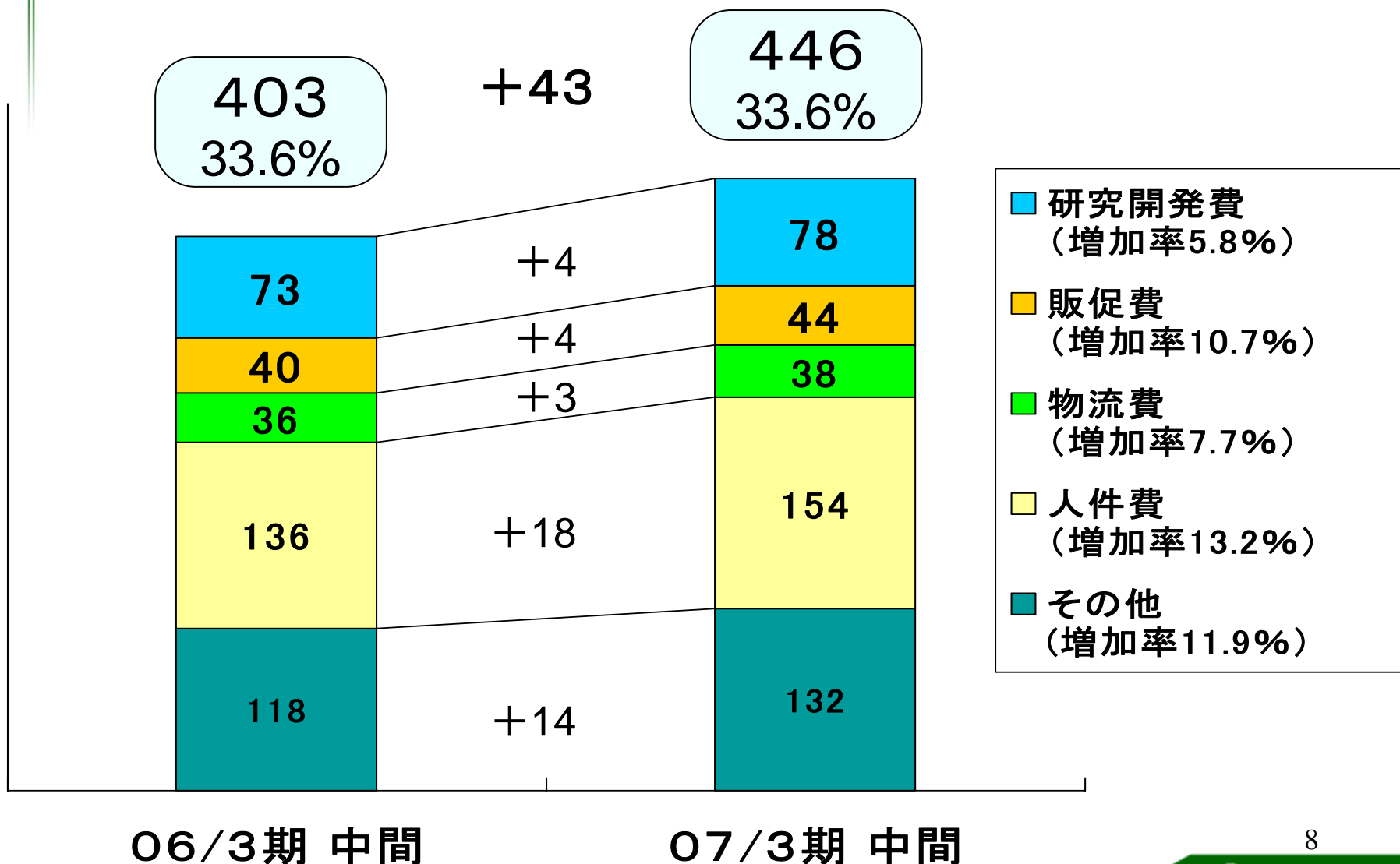
対前年プラス要因: +1.3pt

対前年マイナス要因: ▲0.6pt



# 販管費の内訳

(億円)





# 通期見通しは上方修正

(億円)

07/3期	従来発表値	今回修正	増加額
売上高	2,670	2,730	+60
営業利益(率)	547(20.5%)	575(21.1%)	+28
経常利益(率)	542(20.3%)	575(21.1%)	+33
当期純利益(率)	337(12.6%)	370(13.6%)	+33

年間レート

US\$ 110円  
EUR 135円

US\$ 114円  
EUR 145円



# 上期の業績について

◆海外は心臓・血管商品を中心に伸長、成長を牽引

◆国内は価格改定の影響を受けたが、市場の変化への対応を進め、復調傾向

＜国内市場の変化＞

- 主要な急性期病院がDPCへシフト
- 専門病院の拡大
- 在宅医療への誘導政策はこれから

# DPC病院が一気に拡大、今後も増加

『DPC病院 + 予備軍』  
約50万床への戦略が鍵

DPC	06/3 以前	144病院	約 9.5万床
	06/4~7	216病院	約 9万床
DPC 計		360病院	約 <u>19万床</u>

DPC予備軍	1700病院	約 <u>30万床</u>
--------	--------	---------------

## ●DPC病院の基準

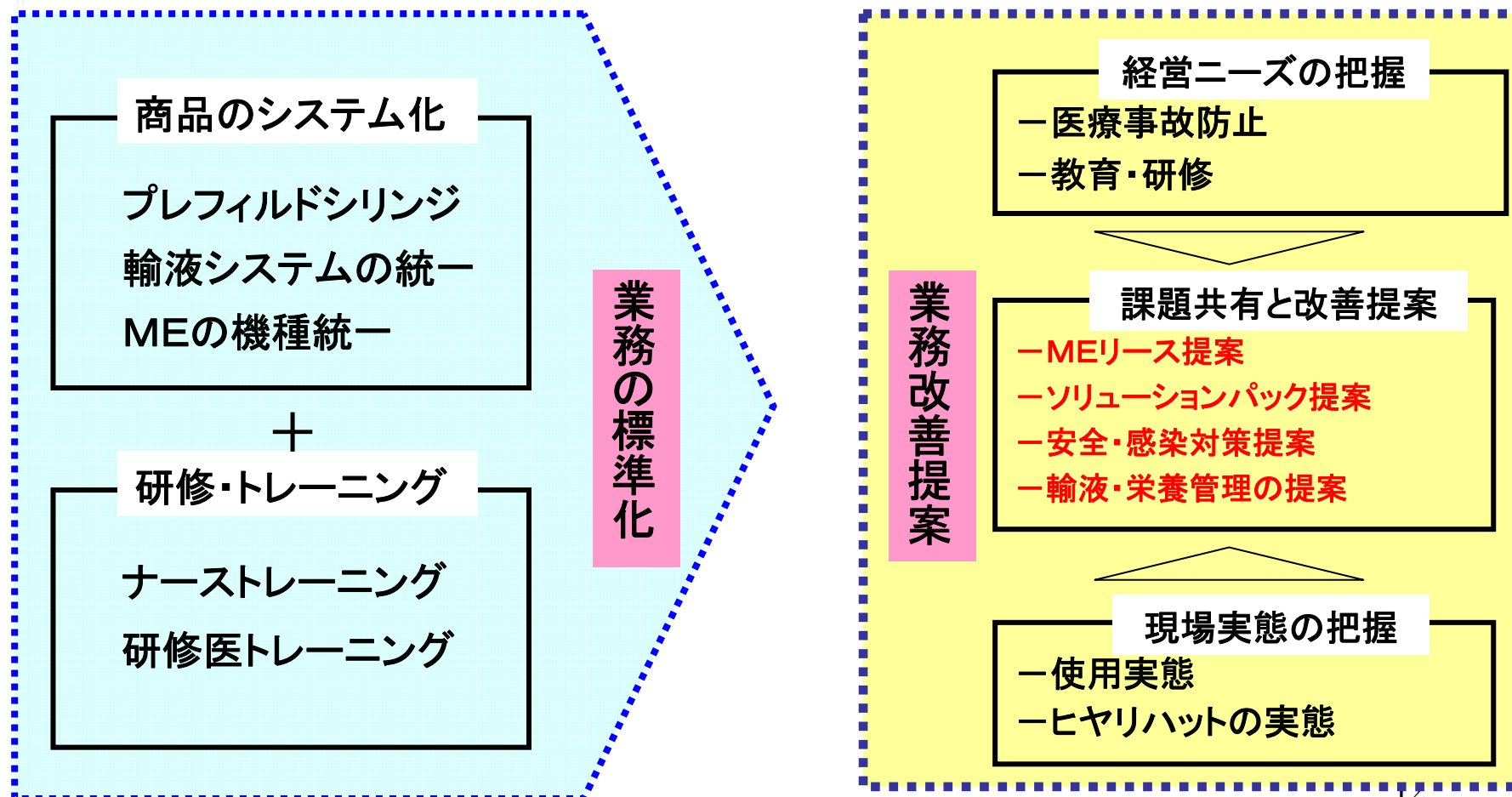
- ・看護体制 10:1以上
- ・診療録管理体制
- ・レセ電算マスター整備

+

- ・特定集中治療管理料
- ・救急救命入院料
- ・病理診断料
- ・麻酔管理料
- ・画像診断管理加算

# DPCに対応したテルモの取り組み

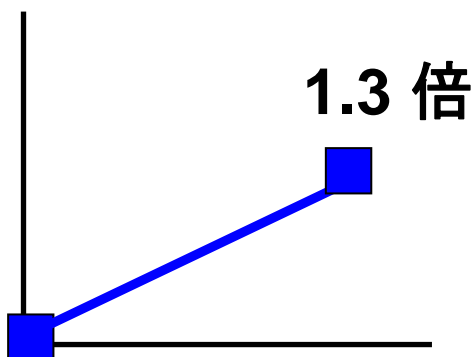
## 安全で効率的な医療への貢献



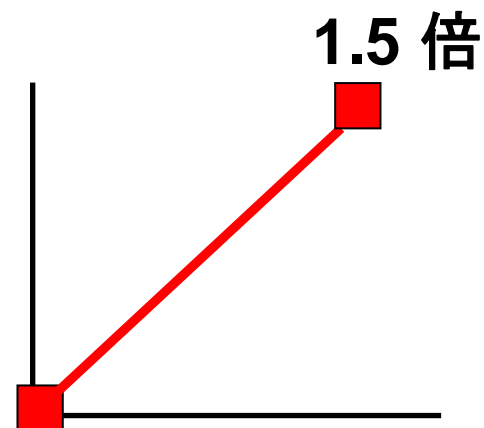
# DPC導入による病院の変化（1）

## 商品の標準化・集約化

一般輸液（ソルデム）



一般輸液（ソルラクト）

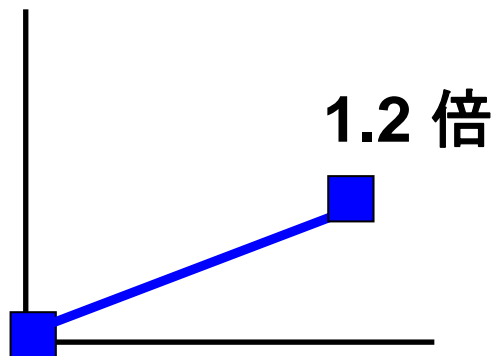


<テルモ売上比較> 前中間期を“1”とした場合の今中間期の倍率

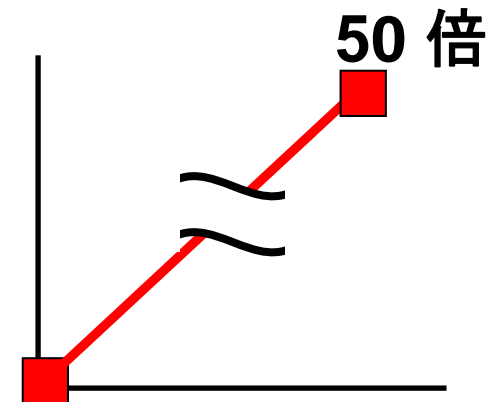
# DPC導入による病院の変化（2）

## リスクマネジメント商品の拡大

リスクマネジメント医療器



フルリック大容量



<テルモ売上比較> 前中間期を“1”とした場合の今中間期の倍率



# 変化への対応と今後の取り組み

## ◆DPC病院の増加とビジネスチャンスの拡大

- 「安全性の向上」「業務の効率化」を活かす
- “DPC”効果を他の急性期病院へも

## ◆専門病院の拡大

- 循環器内科（カ-リ治療）、糖尿病など 専門病院へのアプロ-チ

## ◆在宅医療拡大への期待

- 誘導政策の効果の見極め、新しいビジネスの発掘



# トピックス



# Nobori 臨床試験、中間報告

## TCT06発表資料より抜粋

	Nobori	対照群
Late Loss *	0.15mm	0.32mm
再狭窄率	0%	0%
ステント内血栓症	0%	0%

\* 内膜肥厚の数値、最適値は0.10-0.20mmといわれている

### 今回のポイント

- ・対照群に比べ良好
- ・ステント内血栓症も発生せず
- ・安全面では生分解ポリマーの効果が期待される

# 補助人工心臓 “DuraHeart”

## ■ 欧州:

- ・2006年度 第2Q 臨床試験終了
- ・2006年度 第4Q CEマーク取得予定
- ・2007年度 販売予定

## ■ 米国:

- ・2007年度中に臨床試験申請予定

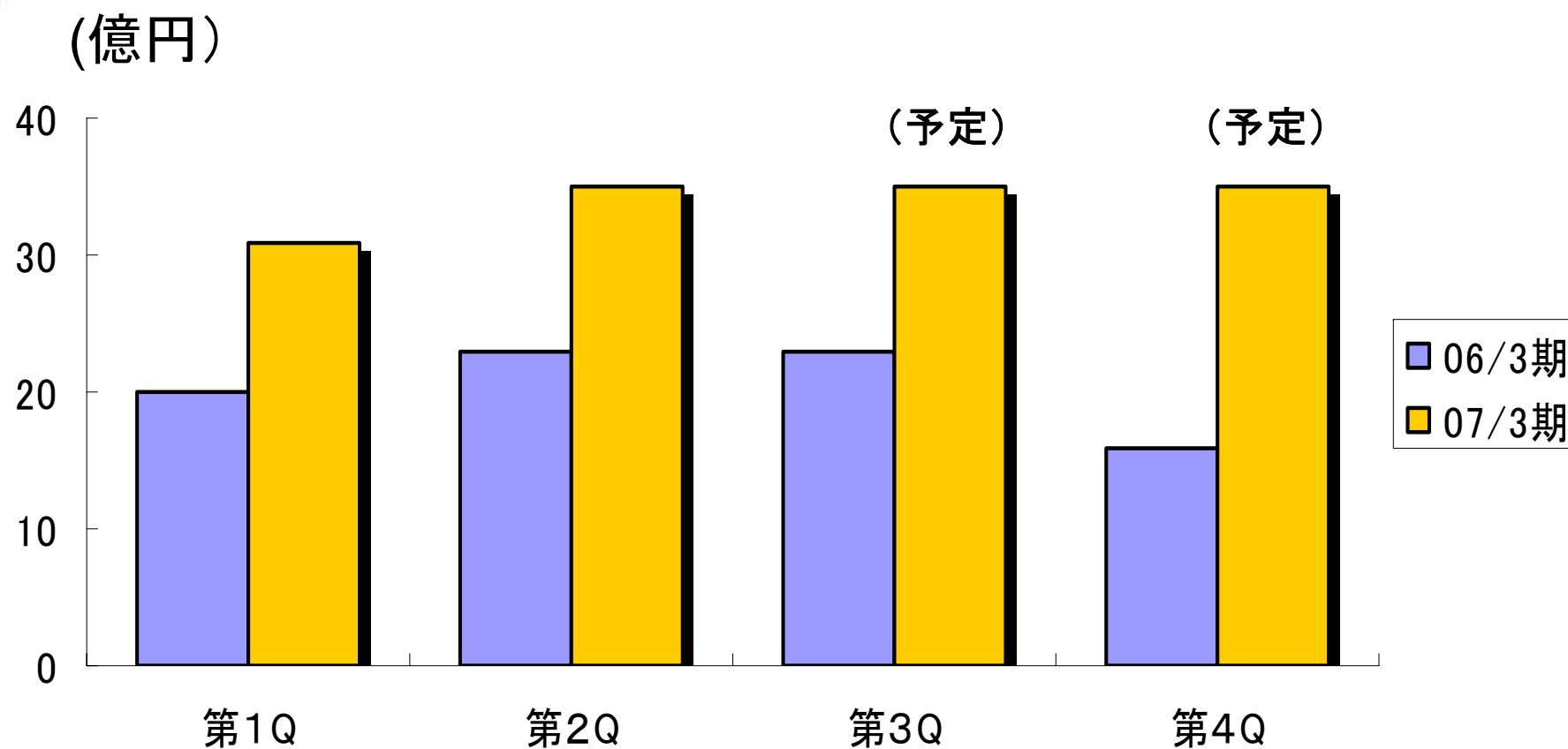
## ■ 日本:

- ・臨床試験申請のための準備中



# 米国カテーテル事業

年間売上見込み、135億円



# 脳コイル事業 (マイクロベンション社)

## 売上は堅調に推移

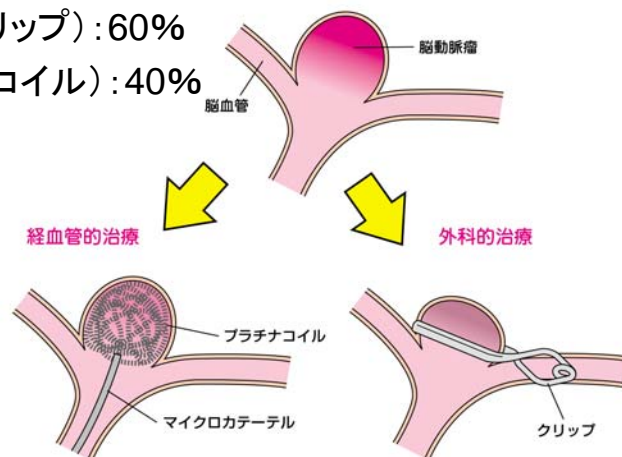
- ・ 中間期売上実績22億円  
(2006年度見通し 50億円)
- ・ コイル市場は年率15%以上の成長

### 【脳動脈瘤治療】

全世界で 年間8万人が治療を受けている

外科的治療(クリップ): 60%

経血管的治療(コイル): 40%



### コーテッドコイル

- ・ 高い充填率と治癒率が期待

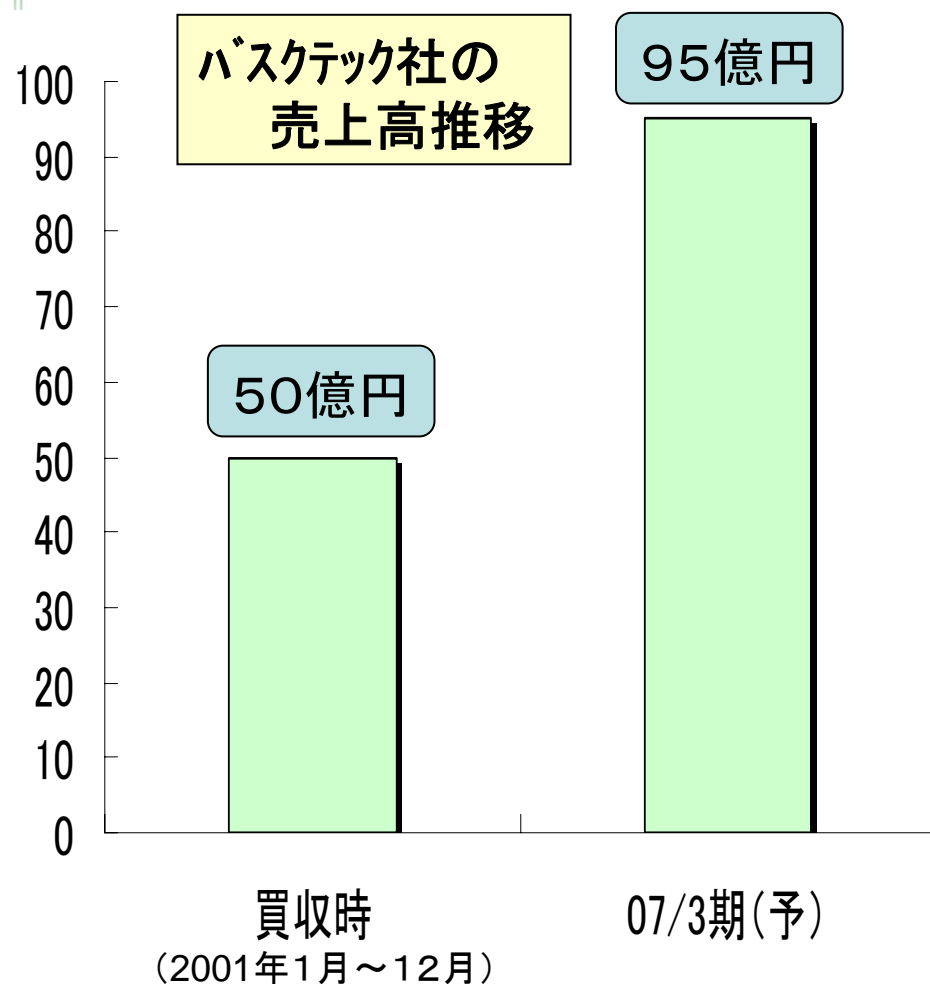


### プラチナ製ベアコイル

- ・ 柔軟性と高い操作性

# バスケットック社の売上は順調に拡大

(億円)



## ステントグラフト(アナコンダ)

■ 欧州: 2005年4月より販売開始

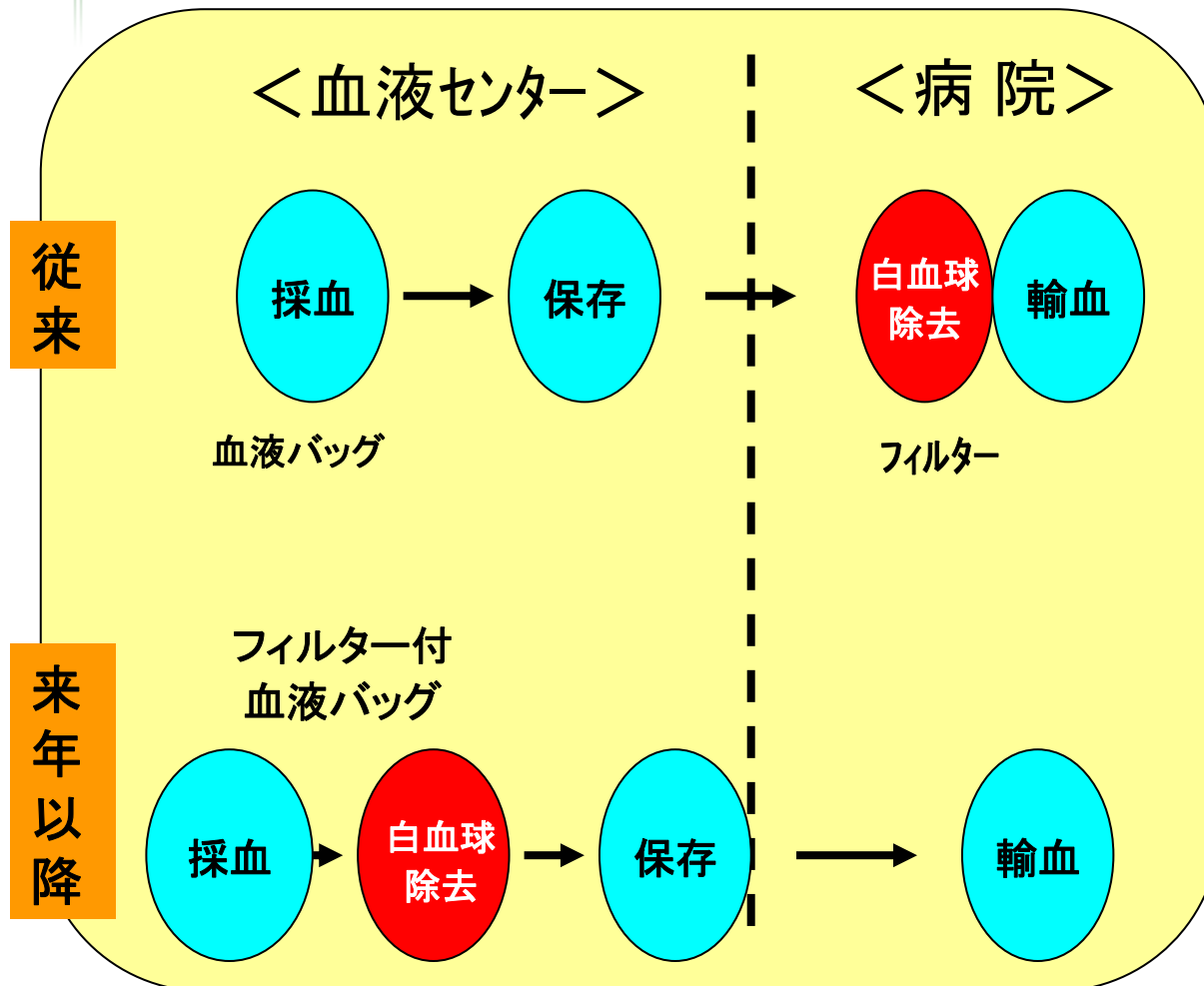
売上見通し(2006年度): 6億円

■ 米国: 臨床試験実施中

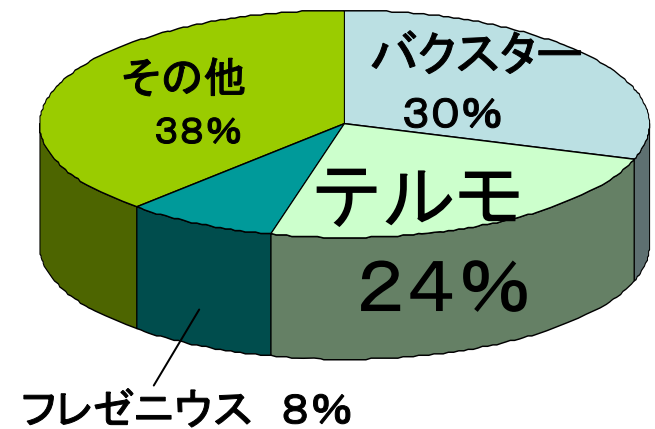


# テルモの血液事業

## 全血の採血方式が変更



血液バッグの市場  
(全世界:220億円)



(テルモ推定)

# 造影剤について

## ■造影剤4商品

MRI用造影剤「マグネスコープシリンジ」

尿路・血管造影剤「ヘキサブリックス320」

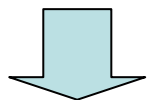
リンパ系・子宮卵管造影剤「リピオドールウルトラフルイド」

非イオン性X線造影剤「イマジニール」

## ■譲受後の取り組み

カテーテル事業とのコラボレーション

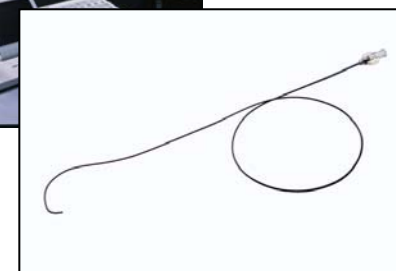
DPC導入先へのアプローチ



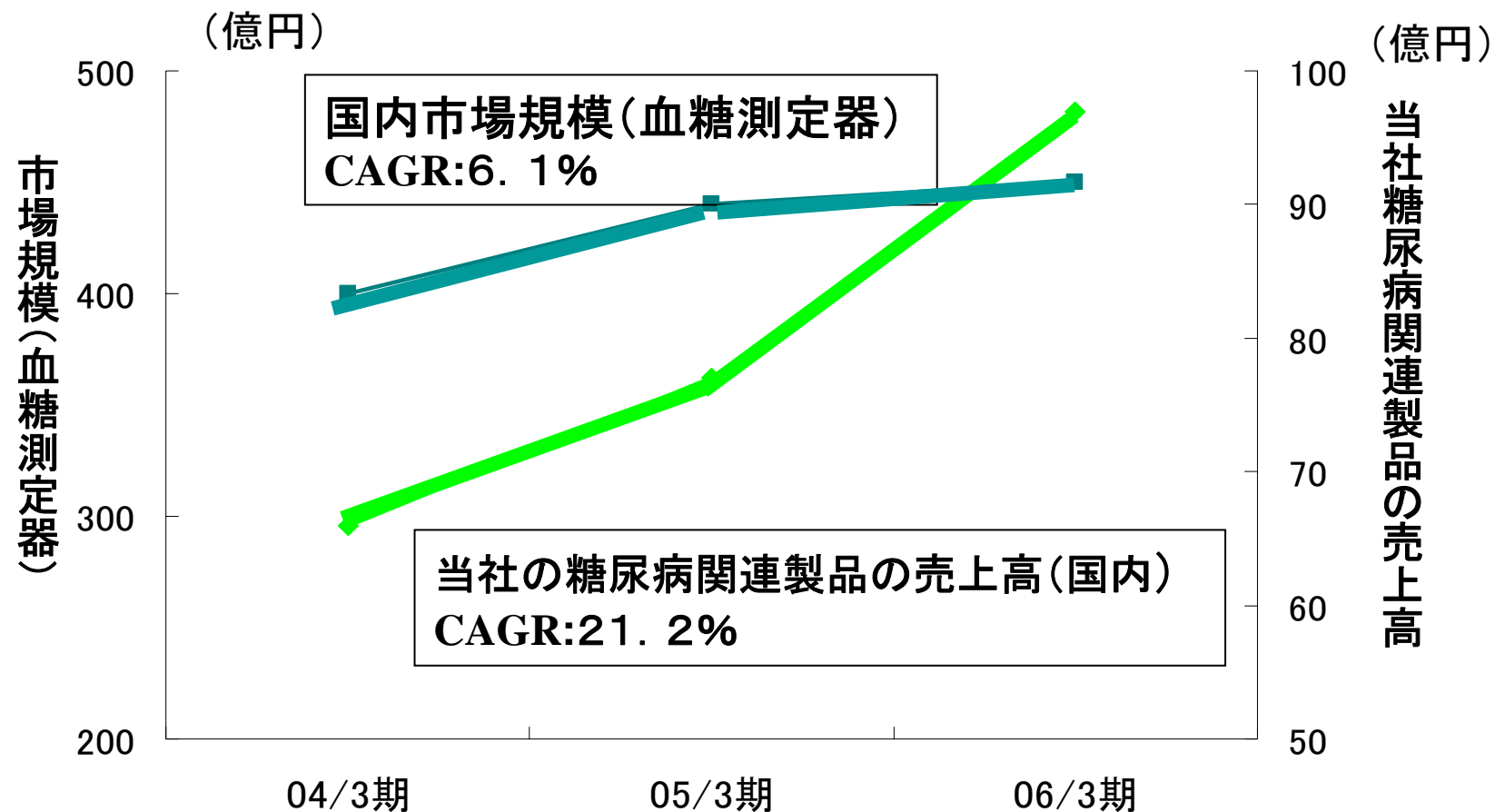
中間期売上実績8億円  
(2006年度見通し:16億円)



(カテーテルを使って造影)



# 糖尿病関連製品は続伸



■ 血糖測定器のシェア22%

■ ナノパス(痛みの少ない針)の売上が本格化





# まとめ

---

- ◆増収・増益、ともに2桁の伸長率を達成
- ◆国内は、市場の変化の対応に注力
- ◆海外は順調に拡大
- ◆大型新商品の開発も進行中



# 《おことわり》

本資料に記載されている業績予想ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき、当社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため様々な要因の変化により、実際の業績が、記載されている予想・見通しとは異なる場合があります。ご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、為替レート、競争状況などがあります。